

ポスター | 第40回医療情報学連合大会（第21回日本医療情報学会学術大会） | ポスター発表

ポスター1 COVID-19

2020年11月20日(金) 11:20 ~ 12:20 A会場 (中ホール)

[3-A-2-03] 支部会研究会オンライン開催の経験

*中原 孝洋¹、高野 香子²、田中 久淳³、工藤 孔梨子⁴、富松 俊太⁴、中島 直樹⁵（1. 九州歯科大学共通基盤教育部門, 2. 医療法人高野胃腸科, 3. ITソリューションサポート株式会社, 4. 九州大学病院アジア遠隔医療開発センター, 5. 九州大学病院メディカルインフォメーションセンター）

*Takahiro Nakahara¹, Kyoko Takano², Hisaatsu Tanaka³, Kudo Kuriko⁴, Shunta Tomimatsu⁴, Naoki Nakashima⁵（1. 九州歯科大学共通基盤教育部門, 2. 医療法人高野胃腸科, 3. ITソリューションサポート株式会社, 4. 九州大学病院アジア遠隔医療開発センター, 5. 九州大学病院メディカルインフォメーションセンター）

キーワード：Virtual academic congress, COVID-19, Teleconferencing

<はじめに>

COVID-19の感染拡大により、2020年2月以降の学会や研究会等は通常開催が不可能となった。九州・沖縄支部会2020年度春期研究会（併催：九州沖縄医療情報技師会勉強会）は、5月9日九州歯科大学真鶴キャンパスで実施予定であった。しかし、3月末時点で通常通りの開催は不可能と判断し、ワークショップを含め完全オンラインによる研究会を実施した。

<方法>

システムとして、Zoomウェビナーを用いた。これは一般の受講者は発信機能をチャットのみに制限し、セミナーを一方通行で行う仕組みである。実地開催は180名を予定していたが、全国から受講者が集まることを想定し500名のウェビナー契約とした。

研究会は、当初の予定通りセミナー2セッションとワークショップの3部構成とした。質問及びワークショップの受講者からの発言は、すべてチャットによった。

本研究会は医療情報技師更新ポイントの対象とされ、ログによる滞在時間と途中でアナウンスする確認コード（合い言葉）により、受講確認とすることとした。

運営の技術支援は、九州大学アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）が行った。

<結果>

申し込み総数423名であり、九州沖縄以外からの受講者が174名（41.1%）であった。最大参加人数はシステム表示上400名（演者及び運営担当者を含む）であり、医療情報技師更新ポイントの認定者数316名だった。

支部会研究会として初のオンライン開催だったが、目立ったトラブルはなく、極めて順調に終わることができた。

<考察>

COVID-19対策の副次効果として、テレワークやWeb会議をはじめ、さまざまな取り組みが急激に進展した。学会等についても同様で、今後一つのスタンダードになりうる好適要素が多い。今回のようにオンライン開催の経験をした組織が多数あることから、こうした形態での実施が一層推進されると考えられる。

支部会研究会オンライン開催の経験

*中原 孝洋¹、高野 香子²、田中 久淳³、工藤 孔梨子⁴、富松 俊太⁴、中島 直樹⁵

*¹九州歯科大学共通基盤教育部門、*²医療法人高野胃腸科、*³ITソリューションサポート株式会社、*⁴九州大学病院アジア遠隔医療開発センター、*⁵九州大学病院メディカルインフォメーションセンター

JAMI branch research meeting held online

Takahiro Nakahara^{*1}, Kyoko Takano^{*2}, Hisaatsu Tanaka^{*3}, Kuriko Kudo^{*4}, Shunta Tomimatsu^{*4}, Naoki Nkashima^{*5}

^{*1}Section of Primary Dental Education, Kyushu Dental University, ^{*2}Takano Gastroenterological Hospital,

^{*3}IT solution Support Corporation Limited, ^{*4}Telemedicine Development Center of Asia, Kyushu University Hospital,

^{*5}Medical Information Center, Kyushu University Hospital.

The Japan Association for Medical Informatics has seven regional branches, and each branch holds research meetings about twice a year. In principle, the Kyushu-Okinawa branch holds each in the spring and fall.

However, the worldwide spread of new coronavirus infection (COVID-19) has through Japan, and various events have been canceled or postponed since the end of February this year. The same applies to the JAMI branch research meeting.

We were considering whether we could hold the Kyushu-Okinawa branch 2020th spring research meeting, but decided to hold it online on April 1st.

In this presentation, we will describe the background of online meeting, operation technology and procedures.

Keywords: Virtual academic congress, COVID-19, Teleconferencing.

1. 緒言

日本医療情報学会には、7つの地方支部会があり、各支部会は、年2回程度の研究会を開催している。講演が多いが、宿泊合宿というものもある。九州・沖縄支部会では、毎年原則的に春期及び秋期に各1回の研究会を実施してきた。

2020年度九州・沖縄支部会春期研究会は、九州歯科大学(北九州市)を主幹校とし、5月9日午後開催することとした。会場は同真鶴キャンパスとし、180名の参加者を見込んでいた。

しかし、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19という)の世界的な感染拡大は日本にも及び、本年2月下旬よりさまざまなイベントは中止や延期となった。支部会研究会も同様で、2月末の北海道支部会研究会を皮切りに、軒並み影響を受けた。

九州・沖縄支部研究会について、開催の可否を伺っていたが、4月1日をもってオンライン開催とすることとした。

本発表では、オンライン開催の経緯と運用の技術的背景、諸手続などについて述べる。

2. 目的

日本医療情報学会では、春期学術大会シンポジウム及び学術大会(医療情報学連合大会)の他、各支部会が主催する研究会が定期的に開催されている。支部会研究会の目的はさまざまであると思われるが、講演等を通して医療情報学や医療情報システムの運用について、最新の知見を得る場であるという点は共通だろう。

日本医療情報学会が認定する医療情報技師は、その資格を更新するために一定期間内にポイント(更新ポイント)を蓄積する必要がある。更新ポイントの獲得には各種学会への参

加やe-ラーニングの受講などがあるが、支部会研究会に参加するのも一般的である。春期学術大会シンポジウムや学術大会は全国規模で持ち回りであるため、地方在住者にとって支部会研究会は重要な位置づけにある。

九州・沖縄支部会(以下、当支部会という)で行われる研究会は、例外的に3回という年もあるが、原則的に春期及び秋期に各1回、講演形式で開催してきた(春期学術大会シンポジウムや学術大会が九州で開催される場合は当支部会研究会を行わない)。2017~2019年度の過去3年間では、合計5回が挙行された。いずれの研究会も医療情報技師更新ポイントの対象となっており、九州沖縄医療情報技師会勉強会との併催となっている。当支部会及び九州沖縄医療情報技師会は、名前の通り九州本土の各県と沖縄県によるため、沖縄県にサテライト会場を設定し中継するのが一般的となっている。

今回の春期研究会の実施時期と場所は、2019年1月の支部会幹事会で決定されており、2019年末よりプログラムの検討、演者の選定を進めていた。当初は交通の便の良さから、メイン会場は小倉駅近傍のホテル宴会場を使用する計画だったが、参加者数の増加が見込まれたため九州歯科大学真鶴キャンパス講堂(講演)及び学生食堂(ワークショップ)に変更した。サテライト会場は琉球大学とし、一部の講演はサテライトからメイン会場に中継することとしていた。ワークショップは当支部会としては初めての試みであったが、メイン・サテライト各会場にファシリテータを置いて行う予定で、ワールドカフェを想定していた。

準備を進めていた矢先、COVID-19の国内感染が拡大し、3月初期より開催するか延期するか判断を要する事態となった。この時点で、小規模の学会等がオンラインで実施していることを知り、今回の研究会をネットで開催する検討を開始

した。

以上、支部会研究会の重要性や、医療情報技師のキャリア形成を配慮し、最大限現地開催に相当する形態での実施を行うこととした。

3. 材料及び方法

今回の研究会は、①歯科の医療情報に関連する講演を行う、②ワークショップを行う、の2点を大きな柱とした構成を考えていた。その主旨を表1に示す。

①歯科の医療情報について
・医療情報学全般で、歯科に関する話題が少ない。 ・歯科医学や、歯科医療そのものを見聞きする機会が少ない。 ・歯科医事が、医科医事とは大きく異なっている。 ・歯科の医療情報システムは、独特の構造である。
②ワークショップについて
・講演を聴くだけに比べて、参加した実感が得られる。 ・参加者同士の発言から、多くの事例に接することができる。 ・多様な考え方や多面的な問題解決方法に触れることができる。

表1 今回の支部会研究会のプログラム主旨

第1部を歯科関連の講演、3部をワークショップとし当支部会が担当し、第2部を併催である九州沖縄医療情報技師会が受け持つこととした。

春期研究会をオンライン開催にすることについては、メーリングリストによる支部会幹事会を行い、4月1日を持って全会一致で可決した。また、研究会の実施にあつては、九州大学病院アジア遠隔医療開発センター（Telemedicine Development Center of Asia: TEMDEC）の技術支援を仰ぐこととなった。

講演、ワークショップを受講者に提供するいわゆる Web 会議システムは、ウェビナーの実績が多数あり、TEMDEC での運用経験も豊富であることから Zoom（カリフォルニア、米）を用いることとした。同システムについては、セキュリティ上の不安に関する話題があつた時期であつたが、公開の研究会であり秘匿性を要しないことや、既知の問題点については解決されていて、その過程が開示されていることから、特段の問題はないと判断した。

多数の参加者が見込まれることから、受講者の制御が容易なウェビナーを用いることとし、契約数は500とした。当初の参加見込みは180名だったが、九州沖縄地方のみならず、全国から参加希望があると考え、その数を300名以上と予測した。一方、500名を超えると問い合わせの対応や更新ポイント申請手続きが膨大になるため、最大数を500とした。

これまで医療情報技師育成部会は、オンライン開催の研究会等に対し更新ポイントを付与しなかったことがなかった。当支部会と育成部会事務局とで協議を行い、同運営委員会にて表2の条件で更新ポイントの対象とすることが決められた。

条件1	研究会の開催中に確認コード（合い言葉）を5回呈示する。3つ以上が申請フォームに記載されていること。
条件2	開催時間（4時間）のうち、60%以上の滞在がログで確認できること。
	条件1、2がともに満たされているものを更新ポイントの対象とする。

表2 更新ポイント付与の条件

受講申し込みは九州沖縄医療情報技師会ウェブサイトにて設置したフォームにて受け付けた。入力されたデータは CSV に変換し、TEMDEC にて Zoom ウェビナーに参加者として登録した。参加者には各々異なるウェビナー URL が案内メールとして送信され、申し込み名簿と連結可能とした。更新ポイントの申請は、Google フォームを用い「確認コード」を送信してもらった。参加者とログの照合は、メールアドレスをキーとした。

期日前に、全体を通したリハーサルを実施し、研究会の予定時間4時間に対して、約2時間を費やした。内容は主に座長、演者の環境確認と、それぞれの画面、マイクの切り替えである。

研究会の打ち合わせは当初 Zoom でのミーティングを用いていたが、時間が掛かる割には決定事項が少なく、時系列的な会話が可能な Skype チャットに移行した。

研究会当日、沖縄の演者を除く各演者、座長、ファシリテータは、TEMDEC に集合し、順々にカメラ・マイクの前で話すという無観客講演という形で実施予定としていた。しかし4月7日、福岡県を含む都道府県に COVID-19 の緊急事態宣言が発令され、TEMDEC がある九州大学病院は部外者入構禁止になるとともに、演者等の各所属についても県外移動の規制が敷かれた。そのため、演者等は各所属ないし自宅からのプレゼンテーションとなった。

4. 結果

関係者等50名の参加者枠を残し、450名定員にて参加受付をした。申込締め切りを3日前の5/6としたが、423名の受講申し込みがあつた。その内訳は、図3の通りである。

【申込総数】	423名	【都道府県】		【業種】	
		福岡県(116名)		医療機関(217名)	
【会員区分】		佐賀県(12名)		ベンダー(153名)	
日本医療情報学会会員		長崎県(16名)		教育機関(36名)	
(142名)		熊本県(22名)		団体職員(6名)	
九州沖縄技師会(145名)		大分県(22名)		その他(11名)	
他地域技師会員(58名)		宮崎県(25名)			
学生	(9名)	鹿児島県(17名)			
非会員	(117名)	沖縄県(19名)			
		その他(174名)			

図3 受講申し込みの内訳

九州沖縄以外からの申し込みが174名(41.1%)であり、全国から受講希望があつた。医療情報技師会の他地域勉強会からの参加も多かった。通例の研究会に比べると医療機関からの登録が多い傾向にあつた。最終的な参加者は、Zoom のシステム表示上400名であつた。いずれにせよ、過去の当支部会研究会に比べて非常に多い結果となった。

当日申し込みが1件、当日の問い合わせが4件あつた。これらへの対応を、開催責任者や技術支援を行う TEMDEC が行うことになり、若干の混乱をきたした。

ウェビナー開始時に、未登録ユーザ（参加申し込みされていない参加者名及びメールアドレス）が8名おり、これらの入室は許可しなかった。ミーティング ID とパスワードは正規の申込者にはメール送信されるため、これが漏れたものと思われる。案内メールには、全体プログラムと事前抄録の URL を案内するはずであつたが漏れてしまい、研究会終了後の案内となった。

第1部、第2部は座長各1名、演者各2名による講演とし、第3部はチャットを用いたディスカッション型のワークショップ

であったが、全体的にスムーズに進行した。演者等及び TEMDEC との連絡は Skype チャットを用いた。

研究会終了後、育成部会への申請手続きの中で、同日に開催された関西支部会、中部支部会の研究会と重複申請が 12 名あり、ポイントの重複付与は行わないとのことであった。

今回の研究会について広報に用いたリーフレット(当支部会 Web サイトに掲載)を図 4 に示す。

**日本医療情報学会
九州・沖縄支部会
2020年度春期研究会**
第16回九州沖縄医療情報技師会
勉強会

5月9日(土) 13:00~17:15
オンライン開催! 参加費:無料
医療情報技師更新ポイント 4ポイント
IMISCA補更新ポイント 2ポイント

第1部 医療情報セッション
～医療情報と歯科～
座長:丸山 福市(長崎大学病院医療情報部副部長)
「歯科に関わる厚生労働省 標準規格のこれまでとこれから」
玉川 裕夫(大阪大学大学院歯学研究科)
「歯科の特性と歯科医療情報システムの特徴」
守下 昌輝(九州歯科大学附属病院診療情報管理室長)

第2部 医療情報技師セッション
～医療情報の最近の話題 AIとIoT～
座長:田中 久厚(ITソリューションサポート(株) 代表取締役)
「AI問診 Ubieの導入」
角山 慎司(浦添総合病院管理本部システム統括課長)
「スマートフォン行動認識と医療データとの連携」
井上 朝造(九州工業大学生命工学研究科 准教授)

第3部 ワークショップ
～昨今の医療情報システム～
ファシリテータ 中原 孝洋
(九州歯科大学附属病院准教授)
有賀 拓郎
(琉球大学附属病院講師)

開催責任者:中原 孝洋(九州歯科大学 共通基盤教育部門 情報学)
お問い合わせ先:kenkyu-kai@jami-kyu-oki.info 093-285-3018
http://jami-kyu-oki.info/
お申し込みは <https://bit.ly/2V6qt4d>

図 4 今回研究会のチラシ

5. 考察

研究会のオンライン開催は当支部会としては初めての経験であったが、全体的を通して順調に終えることができた。準備期間が1か月とやや短かったことや、演者等がまだオンライン講演に慣れていない時期であり、ブラッシュアップを要する点もある。

申込者に、必要な情報が提供されていない部分があり、テストユーザという形で確認を行う必要があったと考えられた。当日の参加申し込み問い合わせ対応に対しては、ヘルプデスクを設置することで運営の混乱を防止できると考えられた。参加申し込みの締切から開催まで実質2日しかなく、名簿の整理や参加者のシステムへの登録、参加者自身の環境確認を考慮すると、締切日を若干繰り上げる方がよいと感じた。

リハーサルは入念に越したことはなく、本番に即した形態で実施したことは効果的であったと言える。また運営の打ち合わせや演者等のコミュニケーションは非インタラクティブで行うことが望ましく、今回は Skype であったが、規模が大きくなった場合は項目ごとに分けて表示できるツール(例: Slack)が適切であろう。

医療情報技師の更新ポイントについては、本方式にて受

講の担保が取れるかという懸念があったが、これ以外に受講確認をするには、認証の仕組みを導入する必要がある。今回の方法は、実際の研究会や学会参加に比べてポイント付与のハードルは低くないと捉えている。

当支部会研究会は春期学術大会シンポジウムの約1か月前ということもあり、運営等のノウハウを同実行委員会に引き継いだ。

6. 結論

今回、支部会研究会をオンライン開催し、成功裏に終えることができた。COVID-19 対策の副次効果として、テレワークや Web 会議をはじめ、さまざまな取り組みが急激に進展しているが、学会等についても同様であり、今後一つのスタンダードになりうる好適要素が多い。今回のようにオンライン開催の経験をした組織が多数芽生えたことから、こうした形態での実施が一層推進されると考えられる。

参考文献

- お知らせ・イベント: 日本医療情報学会九州・沖縄支部会.
[<http://jami-kyu-oki.info/%e3%82%a2%e3%83%bc%e3%82%ab%e3%82%a4%e3%83%96/> (cited 2020-Aug-31)]
- 学会全国大会のオンラインでの試行開催の運用メモ. 日本教育工学会 2020 年度春季大会実行委員会.
[<https://cril-shinshu-u.info/archives/1473> (cited 2020-Aug-23)]
- Zoom のセキュリティ脆弱性、ユーザー情報流出は本当か? 日本法人マネージャーが答える. 加山恵美.
[<https://enterprisezine.jp/article/detail/12909> (cited 2020-Aug-23)]